



自然の解説者 自然の解説者

夏季号 [第76号] 2022年7月11日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒371-0103 前橋市富士見町小暮
2425-28 櫻井昭寛方
電話・Fax 0274-42-2726
http://inpuri.web.fc2.com/
編集：総務企画部会

特定非営利活動法人 群馬県自然保護連盟の紹介

理事長 谷畑 藤男

「自然はいったん破壊したら元に戻すことは不可能です」このことは現代人なら誰でもが知っていることです。このすばらしい群馬の自然を破壊から救うのは、今からでも遅くありません。山には美しい花が咲き、野鳥がさえずる。こうした自然環境を維持するためには、私たちは県民一人一人が自然との調和を理解し、幅広い保護思想を広めることこそ必要な施策ではないでしょうか。

1960年代、高度成長期の日本では、大気汚染や水質汚染等の問題、大規模な干潟の埋め立てなど、工業化による自然破壊が加速した時代でした。群馬県自然保護連盟は「尾瀬の車道建設」の反対運動（1971年）を機に設立された自然保護団体です。発起人は日本野鳥の会群馬県支部や大学生を中心とした若者でした。あれから50年、発足当時の想いを礎に、趣旨に賛同した多くの方が活動（自然観察会・環境調査・自然保護活動・環境教育等）を続けてきました。会報「群馬の自然」は204号を超えました。「継続は力なり」と言われますが「継続には力が必要」です。温暖化による気候変動等の新たな環境問題も身近に迫っています。自然観察会等の行事運営にも、ベテランの経験や知識とともに柔軟な発想や行動力のある若い力が必要です。現在会員は150名。自然に興味や関心のある方、会の行事に参加しともに活動してみませんか。

主な事業

- (1) 自然環境保全地域の自然観察と保護活動（群馬県主催）年5回実施。
- (2) 自然観察会（群馬県共催）年5回実施。
- (3) 自然観察教室（会員向け）
- (4) 会報（季刊）「群馬の自然」発行
- (5) その他各種自然保護・環境教育活動

入会

趣旨に賛同の方ならどなたでも入会出来ます。会費は年額3000円、会費は自然保護活動、会報の発行などに充てられます。



保護区内のサクラソウ株数の調査

事務局 〒371-0223 群馬県前橋市大胡町15 大胡シャンテ 2F
TEL/fax 027-289-6165 e-mail:shizen@dan.wind.ne.jp



校庭の樹木 21 ～夏を鮮やかに彩るムクゲ～

顧問 亀井 健一

夏の暑さにめげず鮮やかな花が咲き、夏を彩る花木としてムクゲ（別名ハチス）が知られています。栽培が容易なので公園、校庭、庭などに植えられます。花木として改良が進み、多くの園芸品種があります。

本種は樹高3～4mになる落葉性低木です。耐寒性や耐暑性があり、土質を選ばず、花つきがよく、扱いやすい樹木です。葉は互生し、長さ3～10cm、幅2～4cmの広卵形から菱形です。葉の上部は3裂するものが多いです。花は花径6～10cmほどの5弁花です。花の色は白色、ピンク、紫色など種々あり、咲き方も一重咲き、八重咲き、半八重咲き、乱れ咲きがあります。花の印象からわかるように、ムクゲはハイビスカスやフヨウの仲間で、アオイ科フヨウ属です。花期は7～10月と、盛夏から初秋にかけて長い期間咲きます。花は朝に咲き夕刻には閉じる一日花ですが、途切れることなく次々と新しく咲きます。

朝鮮半島では農村地帯に普通に生えているそうです。韓国では法令で定めた国花に指定されています。このことから朝鮮半島原産かと思われそうですが、原産国は明確ではないが中国南部原産と推定されています。日本には平安時代に中国から朝鮮半島経由で渡来したと言われています。古くから庭木や生垣に使われてきたようです。

和名は、漢名「木槿」の音読みである「もくきん」が転訛した名であるとか、韓国語では花が途切れることなく咲くことから「無窮花」と呼ばれ、これが転訛した名であるとか言われています。別名ハチスは、ムクゲの花がハス（ハチスともいう）の花に似ていることに由来します。ハスがハチスと呼ばれるのは、アシナガバチの巣のような実をつけるからです。



鮮やかなムクゲの花

＜協会活動のトピック＞

第20回通常総会において役員任期満了に伴い役員改選を行いました。新役員と新しい組織体制は次の通りです。

理事長：関端孝雄 副理事長兼事務局長：櫻井昭寛

総務企画部会理事：茂木由美、大島純子 研修部会理事：清水岩夫 観音山FP部会理事：柳澤一朗 普及部会理事：原田和子

受託協力部会理事：中村久和子 インプリの森部会理事：酒井良征

監事：小崎昭一、宇多川紘

＜活動報告＞

第20回通常総会 4月17日(日) カネコ種苗ぐんまフラワーパーク 花と緑の学習館 総務企画部会

協会員113名が参加(内委任状36名)して通常総会を開催しました。関端孝雄理事長、来賓の県環境森林部森林局森林保全課緑化推進係の石丸順主監の挨拶に続いて、令和3年度事業並びに令和4年度事業案を審議し、原案どおり全会一致で承認決定されました。新年度より6部会体制となります。(櫻井)

会員研修1 講演会「ハッ場ダムと吾妻渓谷」

4月17日(日) カネコ種苗ぐんまフラワーパーク 花と緑の学習館 会員研修部会

参加者：協会員56名。第20回総会終了後、ハッ場ふるさとエコツアーガイドであり協会員の浦野安孫講師による講演会を実施しました。野外とは異なってより深堀された吾妻渓谷の話を知ることができました。(清水)



会員研修2「赤城山自然体験メニュー研修」 5月1日(日) 赤城山覚満淵周辺 会員研修部会

講師：亀井健一、大谷正明、関端孝雄、茂木由美、浦野安孫。協会員40名が参加して前橋市中学校林間学校の自然体験の5つのメニューについて講師のための講習を例年通り行いました。午前中は野外、午後は悪天候のためビジターセンター内での講習となりましたが、多くの参加した会員が最後まで熱心に講師役になるための講習を受けました。(清水)



会員研修3「榛名山自然体験メニュー研修」 5月8日(日) 榛名湖畔と沼の原 会員研修部会

講師：亀井健一、大谷正明、関端孝雄、茂木由美、櫻井昭寛。協会員30名が参加して先週に引き続き中学生を対象にした自然体験の講師のための研修を榛名湖畔にて行いました。榛名では「樹木が吸収したCO₂量の推定」メニューを新たに設け、実施しました。(清水)

「大人のための自然教室」開講式、第1回講座 5月15日(日) 憩の森・森林学習センター 総務企画部会、普及部会

関端理事長挨拶、櫻井事務局長による協会活動説明の後、小崎昭一講師による第1回講座を行いました。自然解説の考え方やネイチャーゲームについて学びました。滅多に見られない「ムササビ」を見る機会もあり、今後は楽しみな一日となりました。

参加者：受講生11名、協会員18名。(高橋)



会員研修4「赤城地蔵岳から見る外輪山」 5月29日(日) 地蔵岳山頂 会員研修部会

講師：清水岩夫。協会員12名が参加して山頂カルデラの中央火口丘の地蔵岳山頂に登り、外輪山を俯瞰しました。各種アンテナ基地を見て回り、赤城全体の地形や植生、歴史などを学びました。(清水)



観音山ファミリーパーク自然観察会 観音山ファミリーパーク部会

4月2日(土)「桜の花を楽しもう」講師：亀井健一、柳澤一朗。一般21名、協会員13名参加。

5月28日(土)「春の花さがし」講師：神宮開、関端孝雄。一般13名、協会員11名参加。

6月25日(土)「共に生きる森のいきもの」講師：吉永真、荒木昭彦。一般14名、協会員13名参加。(柳澤)

自然体験事業①「初夏の赤城大沼を一周しながら自然観察」

6月26日(日) 受託協力部会

講師：大谷正明、清水岩夫。参加者：一般13名、協会員24名。

梅雨の晴れ間で天候に恵まれ、赤城大沼を一周しながら、赤城山の樹木や草木、赤城神社のパワースポット、大沼周辺の石碑などを観察しました。参加者の感想として「赤城大沼を一周して赤城山の自然や信仰、文学など人々との関わりが深い山であることを再認識した。1日歩いて疲れたが気持ちのよい汗をかいた。」がありました。(中村)



森林整備 インプリの森部会

4月23日(土)参加者12名。安全祈願、インプリの森刈払い・整備。

5月14日(土)参加者10名。サンデンフォレストのり面伐採対象樹木の野帳作成、5本伐採。

5月28日(土)参加者10名。サンデンフォレストのり面5本伐採。

6月11日(土)参加者8名。インプリの森及び周辺刈払い。

6月25日(土)参加者6名。サンデンフォレストのり面2本伐採。(酒井)



緑の窓

坂バカ、万歳！

第14期生 松村 辰博



ようやく、感染者の減少に向かい始めたコロナ禍。収束してくれることを願うばかりです。感染防止のため、3密を避けてサイクリング人口が増えたそうです。私も始めました。単独走行で、もっぱら車の通行量が少ない車道やサイクリング道を走っています。平坦で車が通らない利根川沿いのコース(自宅⇒五料橋⇒高崎伊勢崎⇒群馬の森)や愛車・N-VANに自転車を乗せ大利根緑地へ(大利根緑地⇒道の駅吉岡温泉)を走っていました。途中で若干の「上りと下り」が何箇所もあり、上り終わって下りになると『おー、苦労した分のご褒美だ、ラクチン、頬を切る風が心地よい』このご褒美が病み付きになってしまいました。最近、もう少しキツめの坂道を求めて車で目的地まで行き、そこから自転車走行。私が最近、気に入っている2コースを紹介します。

渡良瀬川の左岸「ながめ余興場⇒大間々ゴルフ場と広瀬川の間⇒小平塩原線⇒小平の里親水公園」。4月末には親水公園から少し先に行くで国内希少野生動物植物種に指定されている『カッコウソウ』の群生地があり、そこでアツモリソウ・クマガイソウを観察することが出来ました。二つ目は、上電粕川駅⇒サンデン赤城事業者⇒道の駅ぐりーんふらわー牧場⇒畜産試験場⇒中央前橋駅⇒上毛電鉄(自転車持ち込み可・無料)⇒粕川駅。サンデン事業所までは少々キツイ上りですが、そこからはほぼ下り。時速30kmを超える場所もあります。スピードの出し過ぎに注意です。



平坦地では、目的地がひとつ。でも坂道コースは上り坂ごとにピークを目指し、その後に毎回プレゼント(下り坂)があります。すがすがしい緑の中を走り、気分爽快。皆さんもサイクリングを始めてみませんか！坂バカ、万歳！！

豆知識

雑草の話 25 ハコベ

理事長 関端 孝雄

家に近い土手の斜面下方に、他の雑草にも負けず所々にハコベが生育していました。最近、この土手が長さ数100mに渡り掘り起こされ、何ヶ月間大規模な作業が進行していました。

ハコベ(繁縷)(図1)はナデシコ科のハコベ(Stellaria)属で道ばたや畑などに生える1~越年草です。ハコベと言えば春の七草の一つだと思ひ浮かべることでしょう。しかし、標準和名は使われている内に時として変化します(新型コロナウイルスのように?)。現在、この「ハコベ」は「コハコベ」と「ミドリハコベ」を合わせた名前のようなのです。図鑑によっては「ハコベ」と「コハコベ」を区別し、「ハコベ」の別名は「ミドリハコベ」だと言います。とすれば、七草に該当する種は「ミドリハコベ」と言うことですか。別名は他にもあり、ヒヨコ草、スズメ草など、英名はスズメの雑草です。柔らかくお菜として食べられます。また、歯槽膿漏の薬効があるとか。全体を粉にしたものに食塩を混ぜて歯を磨いたと云います。この軟弱な体つきでも周囲にめげず立派に生育し、日本全土に分布します。

白い花弁を数えてみると10枚あります。ところが花弁の基の方を見ると深くV字形に割れているので、実は5枚なのです。花弁を賑やかにして虫たちを呼び入れるためでしょう。属名はスターのことで、花を星に見立てたわけです(図2)。萼片は5枚で腺毛があり花弁より長く、雄しべは普通10本、花柱が3個ですので、花式はK5 C5 A4~10 G(3)です。葉は卵形をしており対生で茎の上部のものは葉柄がなく、下部のものでは葉柄があります。茎は束生で緑色をしており、片側1列に毛が生えています。この毛に沿って水が伝わりやすいと云います。果実はそう果で、熟すと裂開して種子を放出します。種子の表面には先のとがった多くの突起があり、オオバコの種子のように靴底に着きやすく、遠方まで運んでもらえます。また、タンポポと同様に、花が終わると花柄が下を向き、果実が熟すとまた上を向いて裂開します。ハコベ属は日本に10数種生育しています。

コハコベは茎が暗紫色で(図3)ハコベより全体がやや小型であり、花式はK5 C5 A1~7 G(3)です。また、同属で花式がコハコベと同じでもハコベの名が付かないノミノフスマ(蚤の衾)があります(図4)。これは小柄な水田の雑草で全身が無毛です。葉柄のない葉は対生しノミの夜具に見立てられました。

ウシハコベ(図5)は越年性~多年性で、茎の節の部分が暗紫色をし、上部に腺毛があります。茎の上部に着く葉には葉柄がなく茎を抱きます。大きな特徴は花柱が5個ですので、図鑑によってはウシハコベ属に入れています。

花式はK5 C5 A10 G(5)となります。



図1. ハコベ



図2. ミドリハコベ



図3. コハコベの茎葉



図4. ノミノフスマ



図5. ウシハコベ

やちょうのや⑥

鳩はミルクで子育てをする

第1期生 粕川 昭久

鳩の育児餌は「ミルク」と言っても過言ではありません。鳩の体内から作り出され、見た目はカッテージチーズのような色や柔らかさを持っています。水分を65%~80%近く含んでいて、哺乳類のミルクに似ていて濃厚です。成分はヒトの母乳と比べて、たんぱく質と脂肪分の含有が高く、同じく免疫力もあります。英語でピジョンミルクやクロープミルクといいます。日本語で素囊乳(味囊乳:そのうにゅう)と書きます。口と胃袋(腺胃)の間にある素囊(そのう)で作られるからです。(図1)素囊は食物を溜め込んだり、水分で柔らかくする役割があります。この内壁が剥がれて「ミルク」になります。ヒナが孵化する約2日前から素囊乳は作られ始め、親鳥は素囊乳が作られ始めると同時に採餌を止めます。孵化後約1週間程度、ヒナは素囊乳だけで育ちますので親はその間は餌を食べません。素囊はオスもメスもありますので両親がヒナに「ミルク」を与えることができます。この「ミルク」のおかげで鳩は昆虫類の発生が少ない時期でも繁殖が可能なのです。親鳥はヒナを育てている最中に次の産卵をすることもあります。従ってヒナの生育と抱卵を同時期に行うこともあるのです。このため年間5、6回の繁殖をすることが可能です。さらに生まれてほぼ半年で繁殖が可能になります。鳩が身近に多く見られるのはこういった秘密があるからです。

ドバトは石を食べる?

ヒナを育てるドバトは何を食べているのでしょうか。鳩は浅草の浅草寺や鎌倉の鶴岡八幡宮でよく見かけますが、地面に落ちた植物の実、虫、人の落とした食べ物と考えられます。人間の食べた物を鳩にやるのは良くありません。なぜならパンや調理米は素囊炎の元になり、「お菓子」は塩分が高すぎるため、内臓に障害をきたす場合もあります。また意外なものも食べています。それは石です。小石を食べることがあります。ドバトは噛み砕く顎はありません。食べ物を丸呑みし、素囊で柔らかくして腺胃に送り、そこで消化液と混ぜられ化学的に分解します。次の筋胃で飲んだ石と強力な筋肉ですり潰され消化されます。(図1)この筋胃のことを別な言い方でいうと砂肝です。頭を軽くするために重くなる大きな顎、歯や顎の筋肉をつけません。「体の中心ですり潰す」ということを選んだのも飛ぶための工夫だといえます。

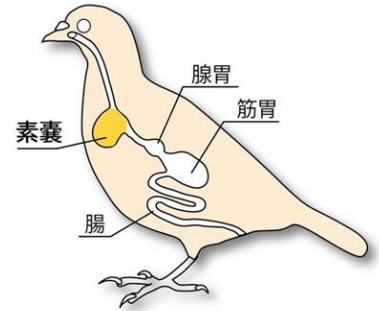


図1. ドバトの胃

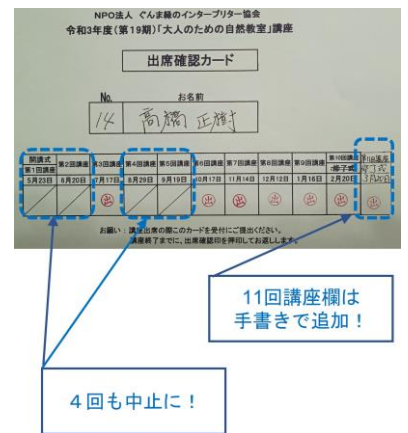
<協会の声>

大人のための自然教室に参加して

第19期生 高橋 正樹

「マンボウ(蔓延防止等重点措置)の影響で講座会場が変更ですか!？」
大人のための自然教室でも、異例となる第11回講座&修了式は、インプリ協会の「ロックダウン世代」である、私たち19期生に相応しいものとなった・・・。

思い起こせば、令和2年度の講座はすべて中止。令和3年7月に、ようやく開講式が実現したのもつかの間、度重なるコロナウィルスの猛攻で、全10回講座のうち、4回が中止に・・・。「あら?全部受講しても7割受講にならない?このままだとだれも修了できないじゃん!?!」・・・との事で、大人のための自然教室の歴史上、初であろう、出席カード欄外に追加された第11回講座。このような不確定な状況下で、私たちの受講をバックアップしてくださった、講師の方々はもちろん、吉田さん、原田さん、廣神さん他、協会員の皆さまには感謝の言葉しかございません。そして、実に3年もの「熟成期間」を経て、新たに協会員となる、我々19期生一同、どうぞ、よろしくお祈りします!



<協会が実施する事業・研修会等>

| 実施日 | 内容 | 会場 |
|--|------------------------------|-----------------|
| 7月10日(日) | 前橋市委託①「森の生き物を見つけよう、クラフトもしよう」 | おおさる山乃家 |
| 7月23日(土) | 観音山FP自然観察会「虫を探そう。ネイチャーゲーム」 | 県立観音山ファミリーパーク |
| 7月24日(日) | 自然体験事業②「木工を楽しもう」 | あかぎ木の家 |
| 7月31日(日) | 前橋市委託②「川の生き物を調べよう。水鉄砲も作ろう」 | おおさる山乃家 |
| 8月9日(日) | 自然体験事業③「赤城の自然を楽しもう」 | 赤城山 赤城少年自然の家と共催 |
| 8月11日(木) | 会員研修8 シカ食害対策ネット巻き | 赤城小沼周辺 |
| 8月20日(土) | 観音山FP自然観察会「葉っぱで遊ぼう」 | 県立観音山ファミリーパーク |
| 8月21日(日) | 自然体験事業④「覚満淵やスキー場の自然観察」 | 赤城山 |
| 9月17日(土) | 観音山FP自然観察会「森の樹木」 | 県立観音山ファミリーパーク |
| 7月9日(土)23日(土)、8月6日(土)20日(土)、9月10日(土)24日(土) | 森林整備 | インプリの森ほか |

<編集後記>初夏になり、自然との会話も楽しく、多くなりました。相変わらずコロナ対策、熱中症予防に気をつけながら活動しています。(原田)